

優秀賞

店舗／大分県国東市

国東市鶴川商店街周辺拠点施設

構造 木造
 階数 地上1階
 敷地面積 3,671.91㎡
 建築面積 251.02㎡
 延べ面積 177.66㎡
 竣工年 令和5年

設計担当者 下村正樹

下村正樹建築設計事務所、大分県建築士会

共同設計者 塩塚隆生

塩塚隆生アトリエ



桜八幡神社側から見た全景 雁行した屋根は翼を広げた鶴のようにも見える



古民家改修のテレワーク棟とチャレンジショップ棟の間にある里道をまたぎ連続する屋根が全体を繋ぐ



チャレンジショップ棟内観 同サイズのスギ材で軽やかに組み立てられた木造の空間は恒久的でありながら仮設的な付まいで、活発な地域の交流拠点となっている

選 評

国東半島の東の端、広域交通の幹線から外れた国東市。かつてはその中心部として栄えたという敷地周辺ではその面影を伺う由もない。しかしこれは全国の小さな町村共通のテーマとも言え、中心部の賑わいを取り戻すきっかけになればという思いが作り出したプロジェクトだった。7月に設計者として選定され年度内竣工という超短期間工期を乗り越え実現された。古くからある神社に面し細長い敷地を見て神社の参道をイメージしたという。この席はチャレンジショップとして貸し出してあわよくば定着、あるいはイベント時の出展を期待する。細長い参道にあたる部分は1.5間グリッドの仮設感たっぷりの

軸組に建具と波板に覆われた開放感が出店のハードルを低くしているように感じさせる。一方敷地の奥に保存した旧医院の二階建て木造は貸会議室やコ・ワーキングスペースとして貸し出すとともに。指定管理者（観光協会）事務所やFMラジオ局のスタジオとして活用する。外観はほとんど変わっていないが一階の床や天井を撤去しているせいか、一歩中に入ると新たな木造空間を感じる。壊しながら考えた設計者も笑いながら言っていたが、一般流通材や既製品の金物の多用、組み立てやすい工法の選択などの工夫が工期やコストのハードルを超えられたポイントか。その2棟のコントラストが気になるのは後から加えた軸組構造があまりにもその存在感を主張しないからかもしれない。

（鮎川 透）



小屋組みを現しにして一体的な室内環境をつくる



1階カフェ・展示スペース 床組みを撤去、コンクリート土間が構造補強を兼ねる



夕景 ガラスと欄間に設けたFRP板を通して室内が浮かび上がる



敷地を横断する里道からチャレンジショップ棟を見る



敷地北側に樹木に囲まれた桜八幡神社がある